

第3節 救急活動の現況

トピックス

12～15 ページ

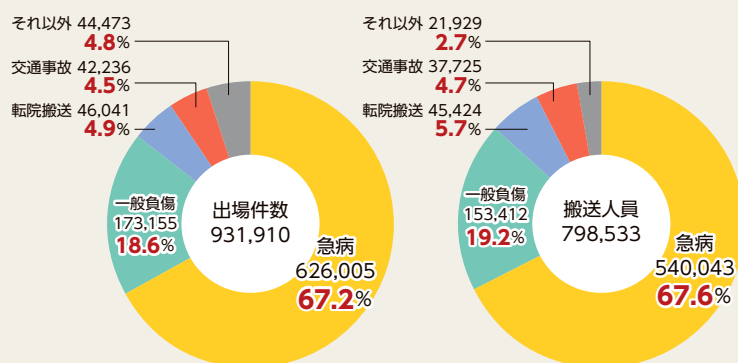


～救急出場の状況と「#7119」の有効活用～

● 事故種別救急活動状況

区 分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
出場件数 (件)	931,910	42,236	4,091	5,635	14	502	6,051
搬送人員 (人)	798,533	37,725	684	5,556	6	209	5,939

● 救急出場件数の事故種別の内訳



● 隊別出場件数上位 10 隊【件】

救急隊名	件 数	1 日平均
大久保 救急	4,815	13.2
神田 救急	4,053	11.1
芝 救急	4,002	11.0
新宿御苑 第1救急	3,940	10.8
豊島 救急	3,936	10.8
大島 救急	3,934	10.8
戸塚 救急	3,927	10.8
荏原 救急	3,885	10.6
三宿 救急	3,872	10.6
高輪 救急	3,868	10.6

● 救護人員【人】

区 分	救 護 人 員		
	総 数	搬 送	現場処置
令和7年	799,679	798,533	1,146
令和6年	799,325	798,035	1,290
増減数	354	498	▲144
増減率	0	0.1	▲11.2

● 高齢者搬送人員【人】

	65歳以上計	65歳～74歳	75歳以上
令和7年	428,830	88,098	340,732
令和6年	432,002	91,408	340,594
増減数	▲3,172	▲3,310	138
増減率	▲0.7	▲3.6	0

● 出場件数の前年比較【件】

区 分	総 数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令和7年	931,910	42,236	4,091	5,635	14	502	6,051
令和6年	935,373	41,765	3,773	5,667	18	551	6,030
増減数	▲3,463	471	318	▲32	▲4	▲49	21
増減率	▲0.4	1.1	8.4	▲0.6	▲22.2	▲8.9	0.3

● 搬送人員数の前年比較【人】

区分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令和7年	798,533	37,725	684	5,556	6	209	5,939
令和6年	798,035	37,223	611	5,570	11	239	5,902
増減数	498	502	73	▲14	▲5	▲30	37
増減率	0.1	1.3	11.9	▲0.3	▲45.5	▲12.6	0.6

※割合、構成比(率)、増減率等の割合を示す数値及び指数を示す数値については、少数第2位又は3位を四捨五入しています。したがって、内訳の合計は必ずしも総数に一致しません。

1 救急出場の状況

(1) 救急活動総括表

■ 図表1-3-1 救急活動総括表

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
173,155	7,346	5,818	626,005	46,041	676	199	14,141
153,412	5,278	4,257	540,043	45,424	—	—	—

● 程度別搬送人員【人】

区 分	搬送人員	重症以上	中等症	軽 症
総 数	798,533	56,571	328,684	413,278
	100%	7.1%	41.2%	51.8%
急 病	540,043	40,681	230,903	268,459
	100%	7.5%	42.8%	49.7%
一般負傷	153,412	3,351	51,706	98,355
	100%	2.2%	33.7%	64.1%
転院搬送	45,424	9,351	32,153	3,920
	100%	20.6%	70.8%	8.6%
交通事故	37,725	1,178	7,803	28,744
	100%	3.1%	20.7%	76.2%
それ以外	21,929	2,010	6,119	13,800
	100%	9.2%	27.9%	62.9%

● 回転翼航空機による救急活動状況【件】

区 分	件 数
令和7年	366
令和6年	302
増 減 数	64

● 救急出場件数が3,500件以上の救急隊【隊】

区 分	隊 数
令和7年	89
令和6年	97
増 減 数	▲8

● 救急活動状況

区 分	出場件数	救急隊数(隊)	1日平均(件)	1隊平均(件)	1隊1日平均(件)	出場頻度
通 常	909,479	279	2,492	3,260	8.9	35秒に1回
デ イ タ イ ム	14,594	18	61	811	3.4	
非 常 用	7,471	—	—	—	—	—
回 転 翼 航 空 機	366	—	—	—	—	—

※航空機動及び各方面本部機動は非常用に計上。

※救急隊数は令和7年12月31日現在の数で集計。

※令和7年中の日数は365日、うち平日は241日で集計。

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
173,155	7,346	5,818	626,005	46,041	676	199	14,141
171,819	7,086	5,680	634,296	45,087	619	149	12,833
1,336	260	138	▲8,291	954	57	50	1,308
0.8	3.7	2.4	▲1.3	2.1	9.2	33.6	10.2

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送
153,412	5,278	4,257	540,043	45,424
151,638	5,066	4,167	543,140	44,468
1,774	212	90	▲3,097	956
1.2	4.2	2.2	▲0.6	2.1

- ・死亡 …… 初診時死亡が確認されたもの
- ・重篤 …… 生命の危険が切迫しているもの
- ・重症 …… 生命の危険が強いと認められたもの
- ・中等症 …… 生命の危険はないが入院を要するもの
- ・軽症 …… 軽易で入院を要しないもの

(2) 過去 5 年間の推移

令和 3 年から令和 7 年まで過去 5 年間の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和 6 年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和 7 年 4 月 1 日現在、全国救急隊数 5,485 隊、救急車台数（非常用含む）6,727 台）。

■ 図表1-3-2 過去 5 年間の出場件数等の推移

区 分	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	全国（R6）
出場件数（件）	743,703	872,075	918,311	935,373	931,910	7,718,380
1 日平均件数（件）	2,038	2,389	2,516	2,556	2,553	21,088
出場頻度（秒）	42	36	34	34	34	4.1

※デイトタイム救急及び非常用救急を含んだ出場件数

(3) 日別最多出場件数

昭和 35 年以降の日別出場件数の上位は、次のとおりです。救急需要は、年々増加傾向にあります。特に夏季及び冬季に高まっており、暑熱または寒冷による体調不良や市中感染症の流行状況により救急出場件数が増加する傾向にあります。（図表 1-3-3）

■ 図表1-3-3 日別上位出場件数（夏季 5 位、夏季以外 5 位）

順位	年月日	出場件数（件）	熱中症疑い	最高気温
1	平成 30 年 7 月 23 日（月）	3,382	熱中症疑い（411 人）	39.0℃
2	令和 6 年 7 月 8 日（月）	3,373	熱中症疑い（303 人）	36.0℃
3	令和 6 年 7 月 29 日（月）	3,283	熱中症疑い（279 人）	37.3℃
4	令和 4 年 7 月 1 日（金）	3,274	熱中症疑い（390 人）	37.0℃
5	令和 6 年 7 月 22 日（月）	3,214	熱中症疑い（211 人）	36.6℃

順位	年月日	出場件数（件）	気候の特徴
1	令和 6 年 12 月 28 日（土）	3,333	最低気温 1.4℃（積雪 0cm）
2	令和 6 年 12 月 27 日（金）	3,296	最低気温 3.8℃（積雪 0cm）
3	令和 6 年 12 月 23 日（月）	3,260	最低気温 2.4℃（積雪 0cm）
4	令和 6 年 12 月 29 日（日）	3,253	最低気温 0.5℃（積雪 0cm）
5	令和 6 年 12 月 21 日（土）	3,220	最低気温 2.8℃（積雪 0cm）



救急隊の増強

救急需要は、高齢化の進展、疾病構造の変化や都民ニーズの多様化などにより、年々増加傾向にあります。特に高齢化の影響は大きく、搬送された方を年代別で比較すると、75 歳以上の方が 340,732 人と、全搬送人員 798,533 人の 4 割以上を占めています。

東京消防庁では、緊急に医療機関で受診する必要がある傷病者に遅延なく救急車を向かわせることができるように、救急車の適時・適切な利用を呼びかけるとともに、救急隊の増強を行っています。令和 7 年には 24 時間運用する通常救急隊を 4 隊、日中の時間帯に運用するデイトタイム救急隊を 4 隊増強した結果、令和 8 年 1 月 1 日時点で通常救急隊を 279 隊、デイトタイム救急隊を 18 隊配置しています。

■ 図表1-3-4 過去5年間の救急隊数の推移

年	通常救急隊	デイトタイム救急隊
令和 3 年	271 隊	4 隊
令和 4 年	271 隊	8 隊
令和 5 年	274 隊	12 隊
令和 6 年	275 隊	14 隊
令和 7 年	279 隊	18 隊

(4) 地域別救急出場件数

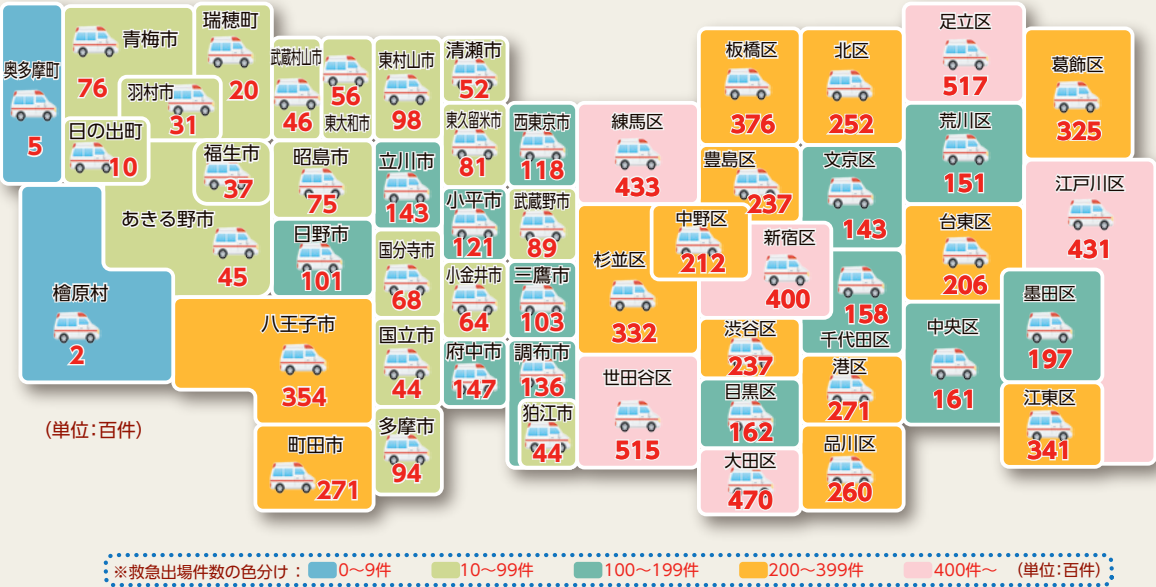
令和7年中、23区で救急出場件数が多いのは足立区、多摩地区で救急出場件数が多いのは八王子市となっています。各区市町村別の救急出場件数は、「附属資料4 統計表(326ページ)」をご覧ください。

■ 図表1-3-5 地域別出場件数上位5位

23区	令和3年		令和4年		令和5年		令和6年		令和7年	
	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数
1	足立区	42,443	足立区	50,038	世田谷区	51,224	世田谷区	52,208	足立区	51,666
2	世田谷区	41,962	世田谷区	48,582	足立区	50,469	足立区	51,910	世田谷区	51,505
3	大田区	38,446	大田区	43,457	大田区	46,672	大田区	47,328	大田区	47,023
4	江戸川区	36,020	江戸川区	41,500	江戸川区	42,748	練馬区	43,665	練馬区	43,331
5	練馬区	35,595	練馬区	41,079	練馬区	42,208	江戸川区	43,524	江戸川区	43,067

多摩地区	令和3年		令和4年		令和5年		令和6年		令和7年	
	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数
1	八王子市	28,521	八王子市	34,131	八王子市	35,170	八王子市	35,538	八王子市	35,420
2	町田市	20,950	町田市	24,637	町田市	25,925	町田市	27,068	町田市	27,112
3	府中市	11,584	府中市	13,837	府中市	14,572	府中市	14,794	府中市	14,651
4	立川市	11,111	立川市	13,237	立川市	14,023	立川市	14,130	立川市	14,254
5	調布市	11,069	調布市	12,688	調布市	13,561	調布市	13,841	調布市	13,555

■ 図表1-3-6 区市町村別救急出場件数(概数)の状況(令和7年中)





救急機動部隊

救急需要に合わせ、 待機場所を変更する救急隊

消防署に待機している通常の救急隊と違って、時間帯等によって変化する救急需要に合わせ、待機場所を変更する救急隊です。救急需要の高い場所付近に待機することで、早く現場に駆けつけることができるとともに、感染症、NBC災害、多数傷病者等、様々な救急事案に対応します。

令和元年10月に部隊を拡充し、日中は丸の内及び幡ヶ谷の各エリアに、夜間は新

宿及び六本木の各エリアにそれぞれ2隊の救急隊が待機しています。

さらに、令和6年10月にデイトタイム救急隊が1隊増強され、救急需要に対応しています。



救急車ひっ迫アラート

救急車ひっ迫アラートとは

救急要請が増加し、非常用救急小隊の編成が必要となる場合等、救急出場体制のひっ迫度合いをお伝えするとともに、救急車の適時・適切な利用を強く訴えかけることを目的としています。

令和7年中の東京消防庁救急隊の出場件数は、前年から3,463件減り、931,910件でした。また、救急搬送された方のうち初診時医師により軽症（軽易で入院を要さないもの）と判断された割合は51.8%で半数以上を占めています。

救急車がひっ迫すると…？

救急出場件数が過去最多の令和6年は、救急車が現場に到着するまでに平均で8分59秒かかっています。

救急車の要請が多く、近くの救急車が出場している場合、遠くにいる救急車が出場することになり、到着までに時間がかかる場合があります。

↓救急車ひっ迫アラートが発令されていることを示しています



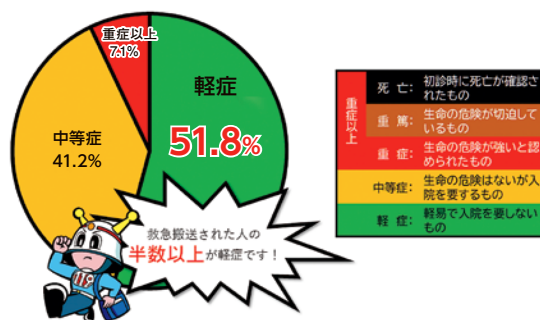
↓救急車ひっ迫アラートを発令する可能性が高まっていることを示しています



↓救急車ひっ迫アラートが発令されていないことを示しています



▲ 救急車ひっ迫アラート

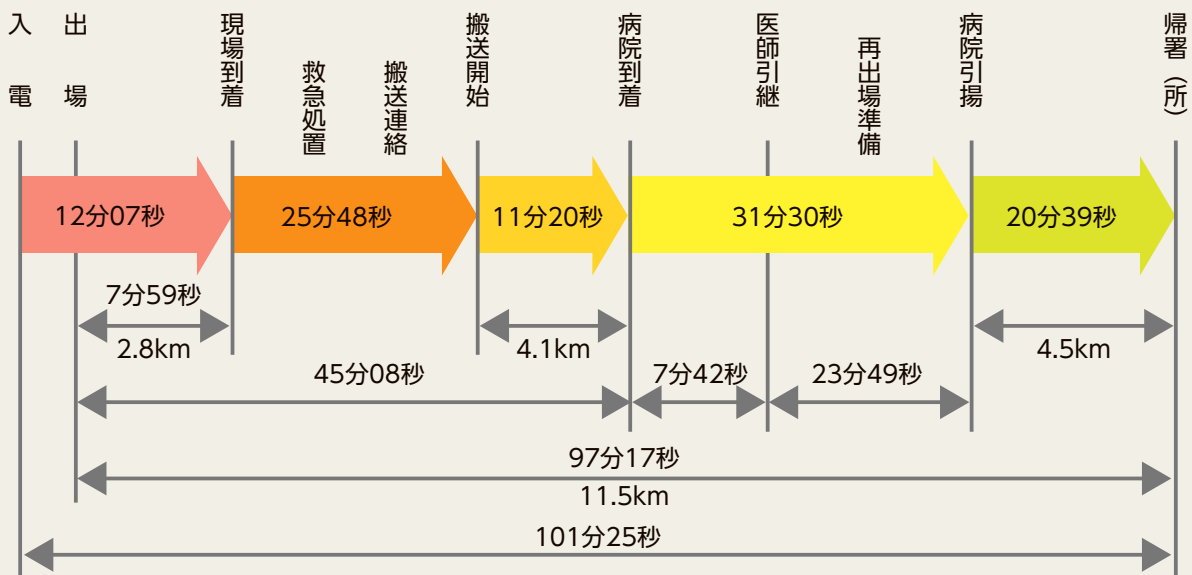


※構成比率は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない可能性があります。

(5) 活動時間・距離

令和7年中の救急隊が入電してから帰署(所) するまでの救急活動平均所要時間は101分25秒で、平均走行距離は11.5Kmです。(図表1-3-7)

■ 図表1-3-7 救急活動時間と走行距離



※救急活動時間の各内訳の数値は、小数点第2位を四捨五入しています。したがって、内訳の総数は必ずしも合計と一致しない場合があります。

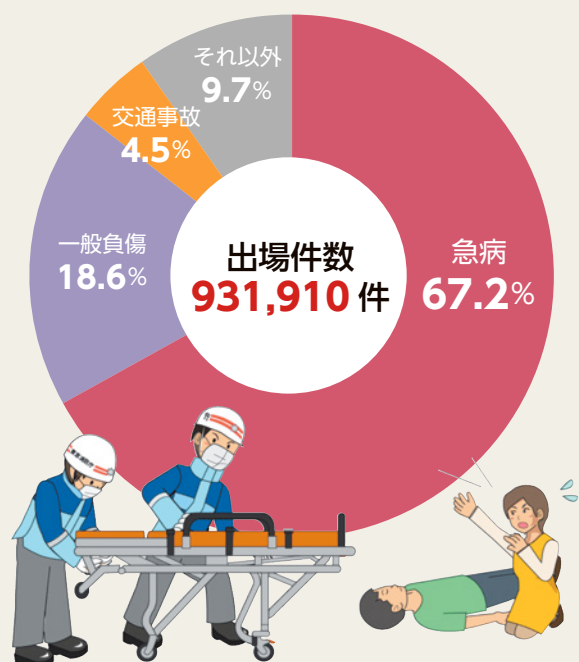
(6) 事故種別ごとの出場件数

急病、一般負傷、交通事故で全救急出場件数の約9割を占めています。(図表1-3-8)

■ 図表1-3-8 事故種別出場件数

事故種別	件数	割合
急病	626,005	67.2%
一般負傷	173,155	18.6%
交通事故	42,236	4.5%
それ以外	90,514	9.7%
合計	931,910	100%

「それ以外」の内訳	件数	割合
転院搬送	46,041	50.9%
自損行為	7,346	8.1%
労働災害事故	6,051	6.7%
加害	5,818	6.4%
運動競技事故	5,635	6.2%
火災事故	4,091	4.5%
資器材等輸送	676	0.7%
水難事故	502	0.6%
医師搬送	199	0.2%
自然災害事故	14	0%
その他(上記以外)	14,141	15.6%

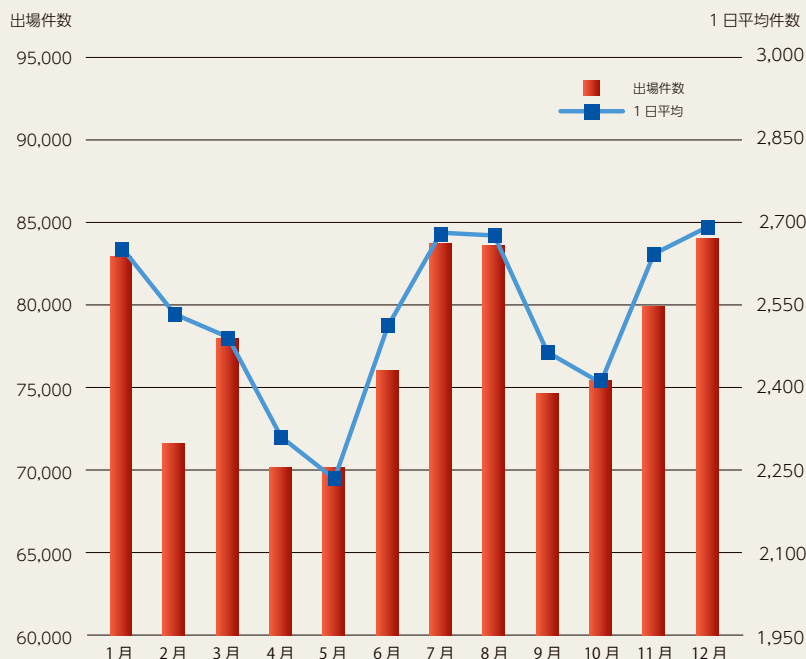


(7) 月別・時間帯別出場件数

ア 月別

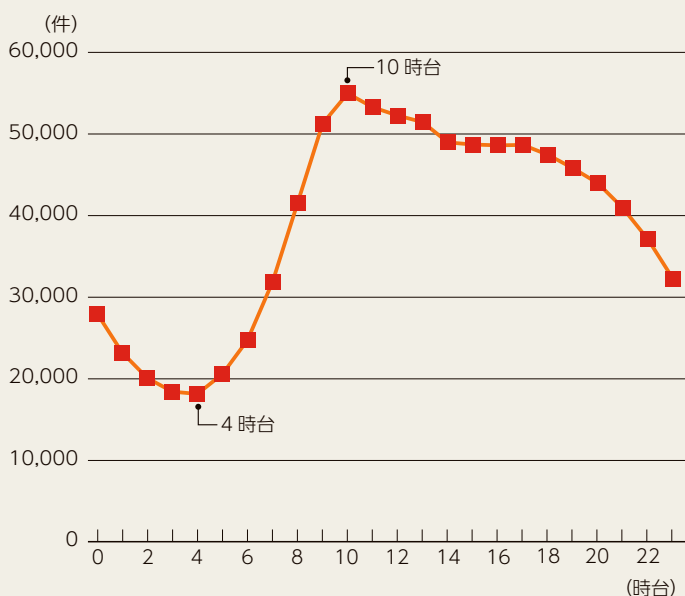
■ 図表1-3-9 月別出場件数

月	出場件数	1日平均
1月	83,120	2,681
2月	71,702	2,561
3月	78,113	2,520
4月	70,217	2,341
5月	70,237	2,266
6月	76,179	2,539
7月	83,929	2,707
8月	83,771	2,702
9月	74,780	2,493
10月	75,568	2,438
11月	80,071	2,669
12月	84,223	2,717
合計	931,910	2,553



イ 時間帯別

■ 図表1-3-10 時間帯別出場件数



時間帯	出場件数	構成比(%)
0時台	27,940	3.0
1時台	23,166	2.5
2時台	20,055	2.2
3時台	18,396	2.0
4時台	18,118	1.9
5時台	20,562	2.2
6時台	24,728	2.7
7時台	31,854	3.4
8時台	41,534	4.5
9時台	51,265	5.5
10時台	54,970	5.9
11時台	53,279	5.7
12時台	52,259	5.6
13時台	51,452	5.5
14時台	48,968	5.3
15時台	48,706	5.2
16時台	48,607	5.2
17時台	48,658	5.2
18時台	47,449	5.1
19時台	45,800	4.9
20時台	43,954	4.7
21時台	40,894	4.4
22時台	37,064	4.0
23時台	32,232	3.5
合計	931,910	100.0

コラム

デイトタイム救急隊

デイトタイム救急隊の概要

○令和元年5月に池袋消防署で運用を開始し令和8年4月1日現在、18隊で運用しています。

○現場到着時間を分析すると、夜間と比較し、日中は長くなる傾向にあります。

⇒日中の救急需要が多い地域で現場到着時間を短縮

○救急資格を保有する職員が、育児や介護などライフステージの変化により交替制（24時間勤務）の救急隊へ勤務することは、必ずしも容易ではない場合があります。

⇒交替制勤務が困難な救急資格を有する職員の活躍

○池袋デイトタイム救急隊に電気救急車（EV）を初めて導入

車両には、電動ストレッチャー等を備え、体格の大きな傷病者や重体重の傷病者への対応力を強化しています。



▲ 電気救急車 (EV)



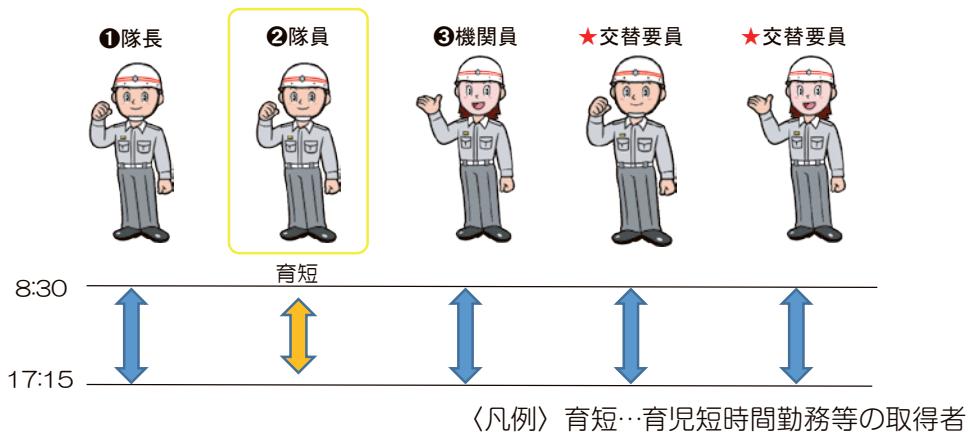
▲ 電動ストレッチャー

運用イメージ (1 隊 5 名配置の一例)

○運用時間

平日の8時30分から17時15分までの間

5名配置構成例

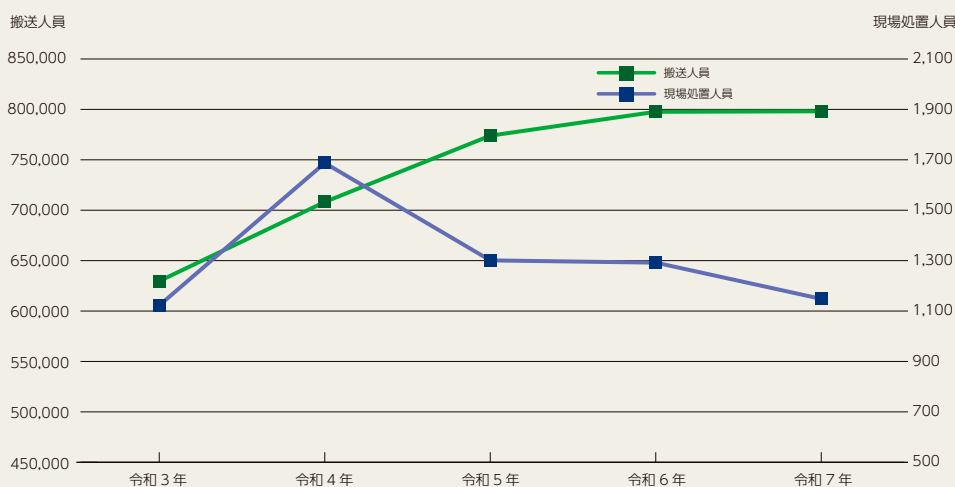


2 救護・搬送人員の状況

(1) 救護・搬送人員過去5年間の推移

令和7年中の搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は798,533人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は1,146人となり、合わせた救護人員は799,679人となっています。（図表1-3-11）

■ 図表1-3-11 救護・搬送人員の推移



	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
搬送人員	630,287	708,695	774,370	798,035	798,533
現場処置人員	1,120	1,686	1,299	1,290	1,146
救護人員計	631,407	710,381	775,669	799,325	799,679

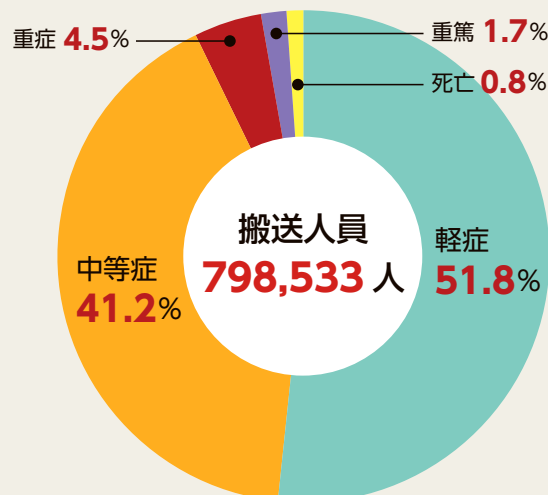
(2) 搬送人員

ア 初診時程度

搬送人員のうち、最も多い初診時程度は軽症で、全体の半数以上（51.8%）を占めています。（図表1-3-12）

■ 図表1-3-12 初診時程度別搬送人員

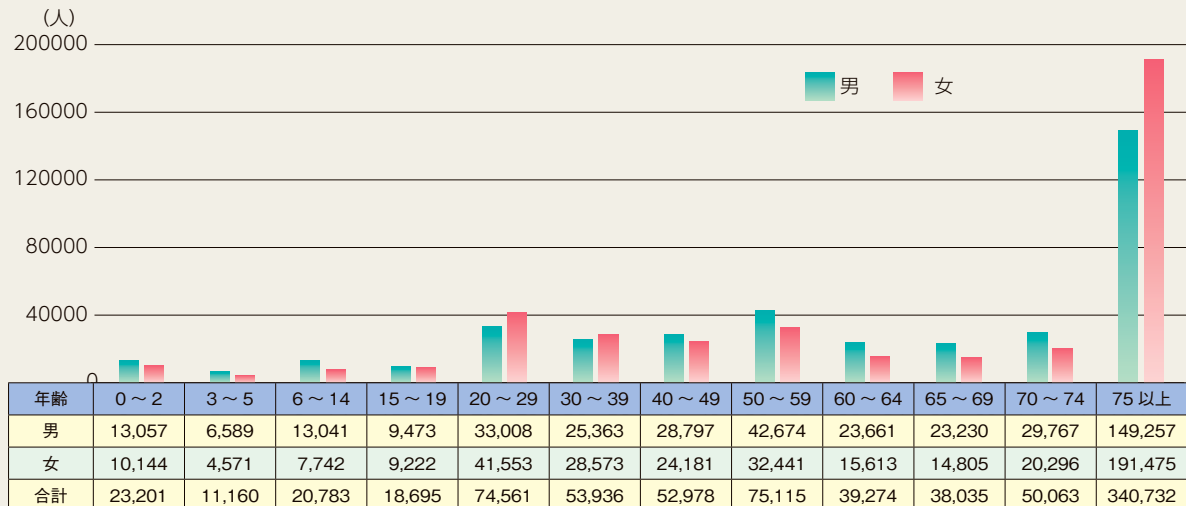
初診時程度	搬送人員（人）	割合
軽症	413,278	51.8%
中等症	328,684	41.2%
重症	36,161	4.5%
重篤	13,623	1.7%
死亡	6,787	0.8%
搬送人員計	798,533	100.0%



イ 年齢層

令和7年の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上の割合が最多となっています。
(図表1-3-13)

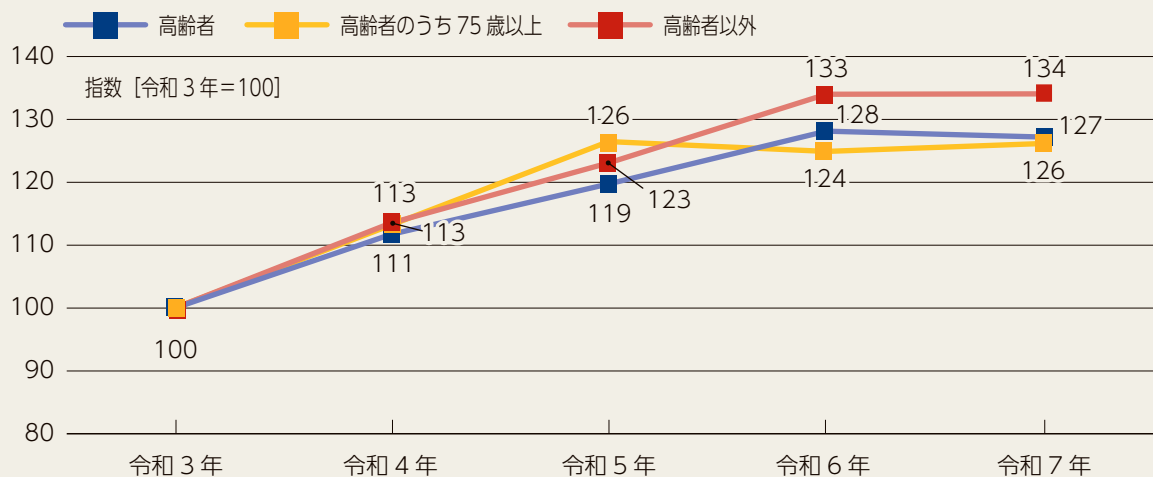
■ 図表1-3-13 年齢層別・性別搬送人員



ウ 高齢者搬送人員過去5年間の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は、428,830人で、全搬送人員の53.7%を占めています。
(図表1-3-14)

■ 図表1-3-14 高齢者搬送人員の推移



	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全搬送人員	630,287	708,695	774,370	798,035	798,533
高齢者	337,224	376,868	403,813	432,002	428,830
高齢者のうち75歳以上	254,273	288,752	312,953	340,594	340,732
高齢者以外	293,063	331,827	370,557	366,033	369,703
高齢者の割合	53.5%	53.2%	52.1%	54.1%	53.7%

3 救急現場に居合わせた人(バイスタンダー)による応急手当の実施状況

(1) 救命講習受講者の推移

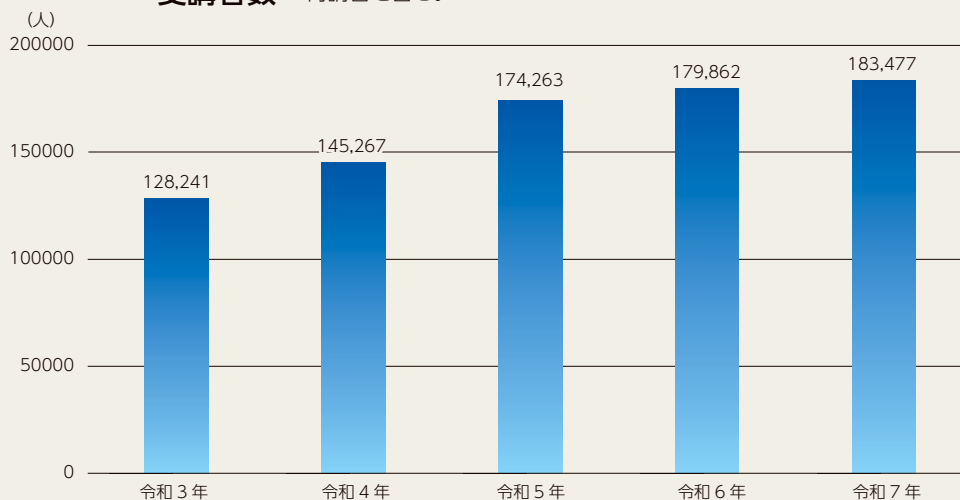
令和7年中は、救命講習(普通救命講習[※]・上級救命講習[※]・応急手当普及員講習[※])の受講者数は183,477人となりました。また、応急救護講習等を含めると396,624人となりました。(図表1-3-15、16)

バイスタンダーの目撃がある心臓機能が停止した傷病者に対しバイスタンダーが胸

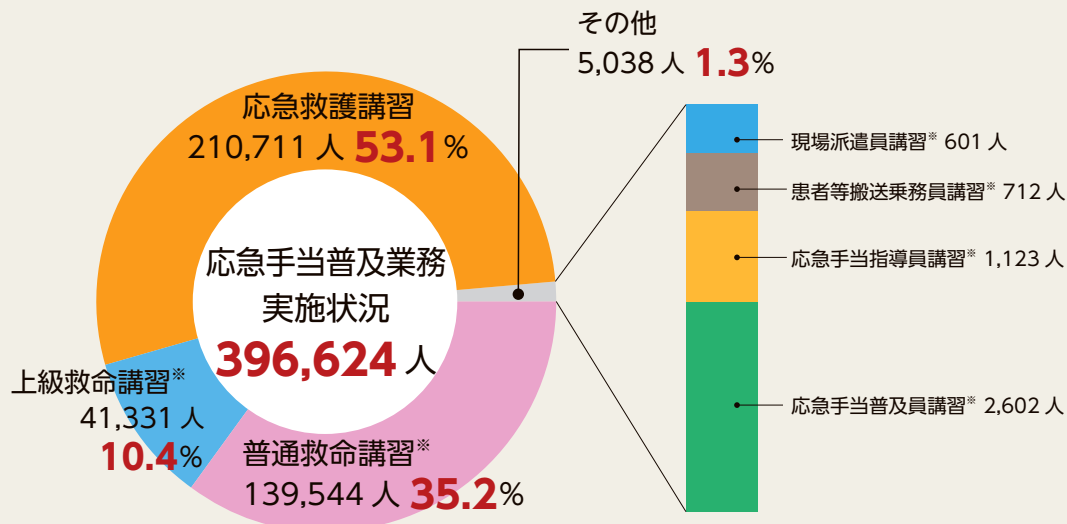
骨圧迫やAED等による応急手当を実施した場合と実施しなかった場合では、傷病者の1ヶ月後の生存率は約3倍の差が生じています(令和7年中)。救命講習を受講し、応急手当の知識を身につけましょう。

※再講習を含む。

■ 図表1-3-15 救命講習(普通救命講習[※]・上級救命講習[※]・応急手当普及員講習[※])受講者数 ※再講習を含む。



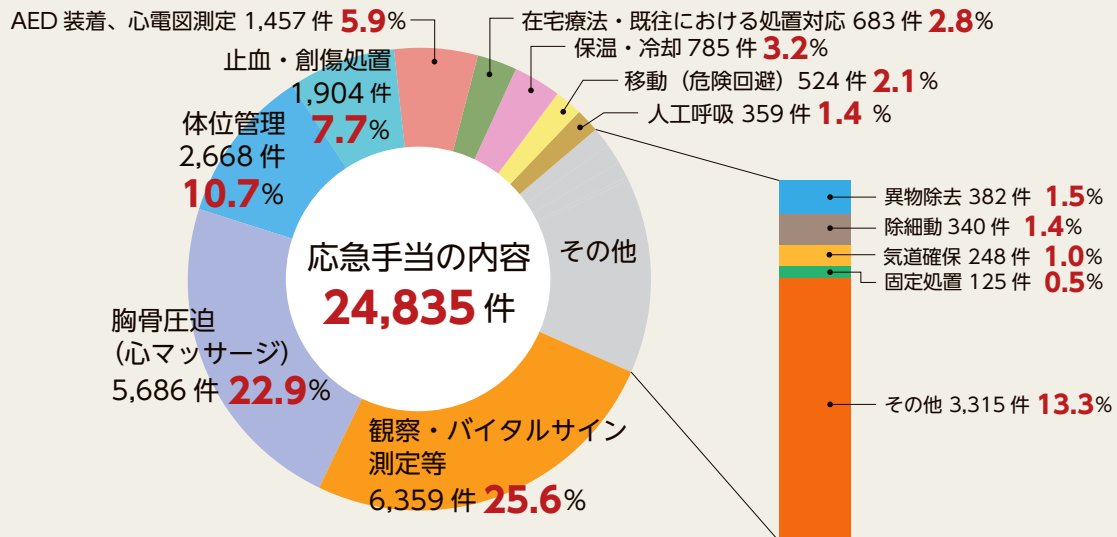
■ 図表1-3-16 応急手当普及業務実施状況 ※再講習を含む



(2) 応急手当の状況

傷病者に対して、バイスタンダーにより、救急隊が到着するまでの間に、24,835 件の応急手当が実施されています。(図表1-3-17)

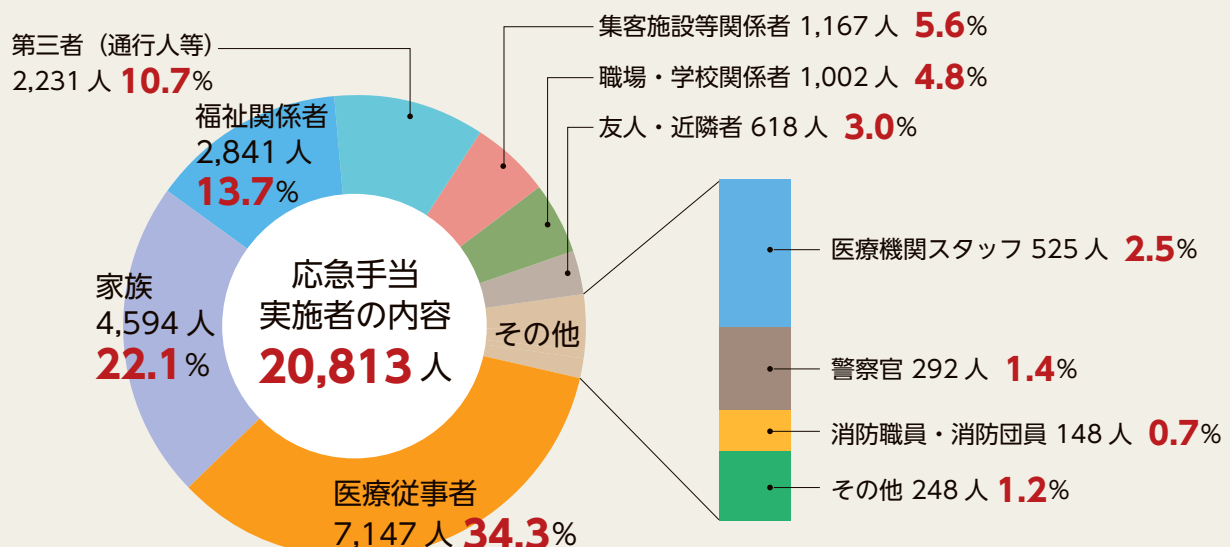
■ 図表1-3-17 バイスタンダーによる応急手当の内容



(3) 応急手当実施者

バイスタンダーによる応急手当を実施者別にみると、医療従事者に次いで家族が2番目に多くなっています。大切な人の命を救うために救命講習を受講しましょう。(図表1-3-18)

■ 図表1-3-18 応急手当実施者



4 「# 7119」 東京消防庁救急相談センターの現況



急な病気やけがをした際に、病院へ行くか、救急車を呼ぶべきか迷った時や、どこの病院に行ったらよいのか分からない時などに電話で相談を受け、緊急受診の要否や適応する診療科目、診察可能な医療機関等について相談者にアドバイスをを行います。

救急車を呼ぶか迷ったときは「# 7119」をご利用ください。

(1) 受付状況

過去3年間の受付状況は次のとおりです。

令和7年は、歴代最多総受付件数等を記録しました。(図表1-3-19)

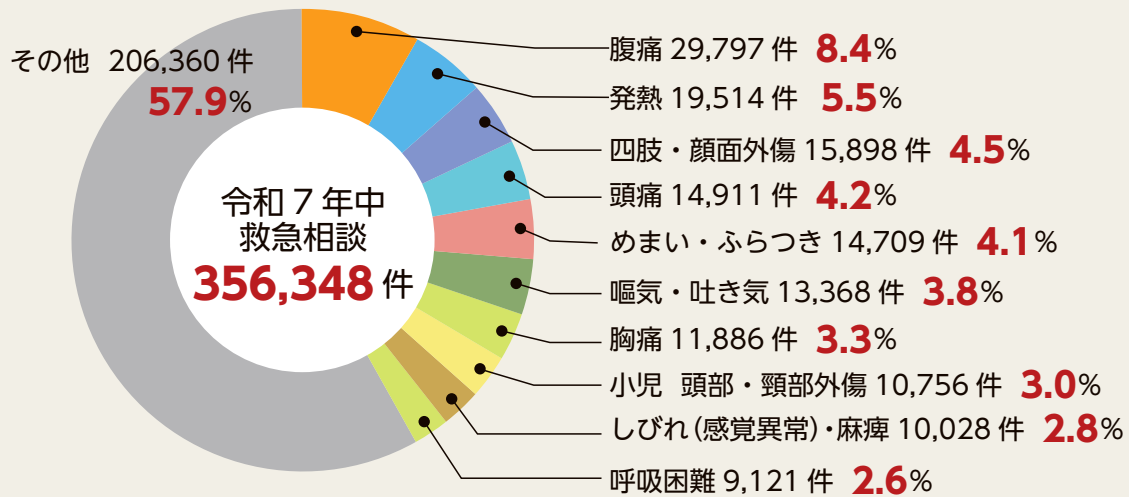
■ 図表1-3-19 受付状況

年次	総受付	医療機関案内	救急相談		相談前 救急要請	その他
				相談後救急要請		
令和7年	503,479件	139,402件	356,348件	67,033件	7,537件	192件
令和6年	485,432件	148,230件	330,640件	63,633件	6,280件	282件
令和5年	467,267件	161,460件	303,102件	54,201件	2,269件	436件

(2) 救急相談の内訳

令和7年中の救急相談の内訳は次のとおりです。腹痛に関する相談の割合が最も多くなっています。(図表1-3-20)

■ 図表1-3-20 救急相談の内訳比



(3) 相談対象者の年齢

令和7年中の相談対象者の年齢構成比は次のとおりです。(図表1-3-21)

15歳～29歳の相談対象者の年齢構成比が最も多く、次いで0歳～14歳、75歳以上となっています。

■ 図表1-3-21 相談対象者の年齢構成比

